

報 告

第44回総会・第142回研修会 参加記

中川かおり

この度の総会・研修会は、4つの演題に加え、後半は第44回総会記念企画として、『病院図書館の世界』を出版された植草学園大学・植草学園短期大学図書館 奥出麻里様の講演があるとのことで、私自身もこちらの図書は拝読していましたので、わくわくしながら参加いたしました。

奥出様は著者近影の写真と同様にお美しい着姿でいらっしゃり、近畿病院図書室協議会の初代事務局長の首藤佳子様聞き手をされ、お二人の楽しい掛け合いの元、講演が始まりました。

本の執筆に至った経緯や、はじめての医学図書館担当者として困ったこと、専任司書としての復帰までの試行錯誤など、とても楽しく拝聴しました。

中でも印象に残っているのが、司書として勤務していた約40年間、デイリーレポート（業務日誌）として何冊ものノートに日誌を書き続けておられたというもの。

はじめは、業務になれていないため、何か尋ねられた際に後ほどわかるように書いておいた方がいと上司の方に言われて書き始めたとのことで、自分用のメモとして書いておられたそう。継続しようと思って書いた物ではないとのことでしたが、それを40年間続けてこられたと

いうのは、やはり奥出様の図書業務に対する姿勢の表れだと感じました。

現物を講演中に回覧くださり、拝見いたしました。最初の頃は本当にメモ書き程度のものでしたが、日を追うごとに細かな内容に変わっていき、業務についてももちろん、送別会の案内までも貼り付けてあったりと、本当に「自分のための」日誌なのだと感じました。

一人職場で働いていると、ついつい目の前の業務の事ばかり考えがちで、日誌をつけようなどと思いつきませんでした。しかし、奥出様のお話にあった「自己啓発には惜しまない」という言葉もそうですが、今の自分、先の自分のためにも、メモ書きでもいいからこういったレポートを日々綴っていくということが、自己啓発の一つとして大事なのではないかと感じました。

このお話を聞いてから、今まで問い合わせなどのメモは適当な紙に書いて、終わったらポイしていたのを改め、自分のスケジュール帳のメモ欄に書くようにしています。

このたびの対談は、奥出様の図書館業務に対する姿勢や思いを聞くことができ、自身の日々の業務を見つめ直す機会ともなり、非常に有意義な時間を過ごすことができました。